



課題解決に向けた授業改善のアイデア

※実践事例 1、2 で指導のポイント
を提案しています

■ 目的や意図に応じて文章を読ませる指導

【実践事例 1、2】

生徒が主体的に学習に取り組むために課題解決的な学習を取り入れます。学習指導要領解説に示されている言語活動例を参考に、さらに具体的な学習課題を設定します。単元の最初に目的となる学習活動を示し、生徒が学習の見通しをもつことができるようにします。

(例) 物語や小説などを読み、作品の見どころとなる表現を引用して、本の推薦をする。

(例) 詩歌や物語などを読み、感想を交流する。

(登場人物の言動の意味を捉え、内容の理解に役立てる)

■ 「学習用語」を生かした指導

【実践事例 1、2】

指導事項を焦点化し、「学習用語」を意識して授業を組み立てます。文章を読む際の明確な着目点として「学習用語」を取り上げています。この着目点が、文章を読む「具体的な方法」になります。用語の定義や、それに基づいた「具体的な方法」について、教師と生徒が共通した認識をもつことを単元の中に位置付けます。また、「学習用語」を繰り返し取り上げることで、学習の系統性を意識した指導につながります。

■ 既習教材を生かした指導

【実践事例 1、2】

小学校や中学校での既習教材を用いて、学習内容を振り返らせます。その際、単元で取り上げる「学習用語」の共通理解を図ったり、「学習用語」に着目して読む練習を行ったりします。学習課題の提示や学習活動に生かします。

新たに出てきた学習用語と既習の学習用語との関連を明らかにすることで、教材内容の理解や学習用語の定着を目指します。

■ 条件設定を明確にした指導

【実践事例 2】

文章の内容を読み取ったり、自分の考えをまとめたりするための条件を設定します。前提となる場面設定や視点を捉え、条件に即して書く練習をさせます。条件とは、「字数制限」「文体や文の形式の設定」「自分の立場や根拠を明らかにする」などを指します。それに従い、自分の考えをまとめたり、書いたりする学習場面を日頃の授業で設定することで、思考力・判断力・表現力が高まるように指導します。

■ 文章を読む視点を基に、分析的に読ませる指導

【実践事例 1、2】

目的や意図に応じて文章を読む手立てとして、文章を読む視点を定めて作品を読ませます。段落や場面で作品を区切って読むのではなく、この視点を基に文章全体を通して分析的に作品を読むことができるように指導を行います。

(例) 「走れメロス」…天候、川の様子、太陽の位置、登場人物の名前などに注目して読む。